

町の木：ケヤキ

ニレ科の落葉樹で、成長が早く樹齢は長い。木質は堅く枝は四方八方に伸び、その繁茂する枝ぶりは明日に向かって伸びゆく鹿島町の象徴です。

昭和48年12月「鹿島御子神社の大ケヤキ」が町の天然記念物に指定されました。



鹿島御子神社の大ケヤキ

町の花：マルバシャリンバイ

鹿島町に自生するマルバシャリンバイは、日本の北限地で高さ1mくらいのバラ科の常緑樹です。

葉は厚くまるみがあり、5月頃白い小さな花が咲きます。その花は香りが高く、気品があり、文化の町、鹿島町の象徴です。



マルバシャリンバイ

昭和31年9月「海老浜のマルバシャリンバイ自生地」が福島県の天然記念物に指定されました。

町の鳥：ウグイス

ウグイスは日本全国に生息し、相馬地方では、早春の2月から3月頃、美しい声で春を告げます。

そのさえずりは、人々の心をなごませこれからの生活に希望を与えています。

ウグイスの一声は、町民に活力と希望を与え明るい鹿島町の象徴です。



ウグイス

わたしたちの鹿島町が、素晴らしい町になってほしいという願いをこめて、昭和59年10月20日に町民憲章、町の木、町の花、町の鳥が制定されました。